

◇ 朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）水害現地訪問報告会資料

1. 被害概況

8月7日から14日にかけて中部・西部地域を中心に断続的な大雨が降った。この期間の降水量は600mmから850mmで過去40年以来最大量を記録した（850mmはプジョンで記録）。この大雨で首都平壤市を含む9つの道で被害が報告されている。集中豪雨による河川の堤防や貯水池の決壊による被害のほか、山崩れの被害と強風による被害が加わり、26日の時点で死者454人、行方不明者156人、負傷者4351人である（22日DPRK政府発表）が、未だ被害の全容は把握されていない。死傷者や行方不明者は貯水池の決壊や崖崩れ、河川流域の土石流によるものが多いと考えられる。崖崩れや土石流の多くは山間部で発生している。

農業被害は10道中7道に及び、農耕地22万2,381haが被害を受けた。特に平安南道、平安北道、黄海北道などの穀倉地帯での被害が全国的な食糧供給に影響を与えると可能性がある。

インフラ被害は広範に亘って生じている。30箇所貯水池が決壊、8箇所計600Kmに亘って河川堤防が決壊。海岸堤防の決壊も19Kmに及ぶ。数千の公共建造物が倒壊し通信網が寸断、水道・電気が不通になった。24万世帯の家屋が全半壊、約17万人が住居を失った。被災民は学校などの公共施設、テント、親戚や知人、隣人の家に避難している（国際赤十字連盟アピール）。

医療施設は病院、診療所など被災地全体の30%から40%が全壊か一部破壊の被害を受けた。また地区ごとに設けられた医薬品倉庫も被害をうけており、薬剤の供給は深刻な不足に直面している。水供給システムの破壊、川や貯水池の汚染、井戸の冠水、侵入水の滞留などが原因で、被災地では下痢の発生も2割程度増えている。またコレラなど水汚染に起因した伝染病、急性呼吸器疾患（ARI）、マラリア、皮膚病の発生も懸念される（コレラは現時点では報告されていない：朝鮮赤十字会言）。

2. 観察

平壤市内では普通江（ポトンガン）があふれ出し普通江地域一帯が浸水した。ポトンガンホテル近くの川沿いの遊歩道の塀に70cmから80cmまで水が来た跡が残っている。大同江（デドン川）は溢水することはなかったが、1m以上の増水があったこと地元の人の話で聞いた。浸水地域の住民は砂嚢の設置や水のくみ出し、アパート低層階の住民の避難の手伝いなどで大変な苦勞をしたと話している。平壤から開城への幹線道路沿いでは、十数か所で人民軍や学生、地元住民が崖崩れの復旧作業に当たっているのを目にした。多いところでは100人以上の作業員が組織的に作業を行っていた。また空港近くのテガン協同農場では、訪問した8月23日の前日まで農場内の道路が洪水の影響で遮断されていたという。訪問時も主要な道路では数十名の農場員がぬかるんだ道に土で固める作業を行っていた。ある地区では水路が決壊して農作物の冠水し、5割以上が被害を受けたと農場管理委員会の委員長は語っていた。

3. その他

大雨発生後1週間というタイミングだったので、被害の実態を正確に把握することは難しかった。また現地駐在援助機関の関係者も合同でミーティングを開くなど情報の収集に努めていた。被災者や死傷者に関する数字も、その時点で「把握できた数字」と考えたほうがよい。国際赤十字連盟のレポートでも死傷者数は今後増加すると述べ、8月20日時点の死者が221人であったのが、26日の朝鮮中央通信によると600人となっている。朝鮮新

